
怪しき会社 2

七英雄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

怪しき会社2

【Nコード】

N8187C

【作者名】

七英雄

【あらすじ】

過去の作品の中での「怪しき会社」の続編。戦いはまだ終わっていなかった！！これが本当の完結編！主人公の苦悩がここで解放される！これは実話です！今、隠されたエピソードが明かされる！

交差する人々その1（前書き）

作品中の「怪しき会社」の続編です。前回を読んでもないと思われるので、読んでもらってこちらへきたら幸いです。ちなみに前回は結構長いです。

交差する人々その1

・・・もう終わったはずでした。

僕の最大の汚点として早く忘れたい出来事でした。
シリーズでもちゃんと終わらせたつもりでした。

・・・そう・・・こんなことさえなければ・・・書くことはなかった・・・。

新たな仕事へとエリートである僕はスゴイやる気になって営業をしています。

時には本屋へ。

時にはビデオ屋へ。

時にはゲーム屋へ。

時にはおもちゃ屋へ。

若干な息抜きはあるものの過去の事はなるべく振り返らずに前に1歩ずつ進んでいました。

まあ・その後2歩下がってるんですが。

その日も僕は梅雨も明けた暑い中市内中心部へと足を運んだ。

薄着に磨きがかかった女の子達を「調査」と称して見に行くためだ。
本当はお客を打ち合わせだったんですけどね。

帰りはまさにその「調査」だったわけですが。

最近はなんかタンクトップのようなものが流行ってるんですか？
なかなかヨダレが出てきますね。

ヘソ出しルックが画期的だったのはもうかなり昔のように思えます。

夏休みということではり人が多い。

僕は早くこのゴミゴミした場所から抜け出そうと歩くスピードを速めた。

一瞬。

奇妙な感覚が僕の身体を走った。

それは。

僕の視界に入ってきて。

擦れ違った「何か」のせいだ。

それは見逃そうと思えば簡単に見逃すことが出来るくらいの感覚。
ほんの僅か視界に入ってきたモノ。

それが「何か」とわかるまでは時間はかからなかった。

僕はゆっくりと振り返る。

（BGMはミスチルのニシエヒガシエの最初のイントロ希望）

変わらない後ろ姿。

変わらない髪形。

変わらない風貌。

擦れ違った・・・。

「何か」は・・・。

「怪しき会社シリーズ」の・・・。

2代目だった・・・。

つづく。

交差する人々その2

あの野郎！

僕は思わず口走り、後を追いかけた。

今までの屈辱が頭に浮かぶ。

のうのうとまだ同じ地にいることに怒りを感じた。

しかも逃げた時と同じような髪形・格好。

見つかるということに怯えがない。

完全に開き直っている。

2代目の所に辿りつく前には冷静になっていた。

ここで向こうに開き直られたらマズイ。

偶然を装って・・・ってゆくか・ホントに偶然だ。

「社長。」

僕は後ろから声をかけた。

2代目は振り返り。

（わざと）誰？という表情をする。

その顔にメガトンパンチを喰らわせてやりたい。

「ああ・・・どうも・どうも」

その言葉にピキツときたがなんとか堪える。

僕が堪えたのには理由がある。

見つけた時には気づかなかったが。

追いついた時に初めて気づいた。

2代目と一緒にいる男を。

まさに新キャラ。
危険な匂いがする。

「どうもじゃないでしょ」

「そうですね・・・この度は・・・ご迷惑かけました」
深々と頭を下げる。

くうー！

こいつ！

「いや・そうじゃなくて・・・」

危険な男は僕を見て。

「どちらさん？」

声にも異様なモノを感じる。

2代目はボソボソつと耳打ちした。

きつと前に逃げた時のお客だったとか言ってるのだろう。

正直恐い。

でも負けるもんか。

「ここじゃなんだから・どっか喫茶店入るか」
危険な男は言った。

ヤバイ。

嫌な予感がした。

先手を取られてはいけない。

「そうですね。じゃあ・あそこにしましょう」

場所は僕が決めた。

奴らの言うなりになると何処へ連れていかれるかわかったもんじゃない。

喫茶店へ向かう途中に上司に電話する。
通じない。

話し中だ。

くそっ！

留守電に入れる。

早くきて〜そしてあの時みたいに僕の頭を叩いて〜。

一応・・・初代にもかける。

僕の中では初代と2代目は繋がっているが・表向きはそう思っ
てないとうに接している。

ここは一言報告はしておかないといけないだろう。

「おつおつおつ
出た。」

「どうも・・・あの・・・（2代目）を見つけたんですけど」

「おっなんでや？」

「いや・偶然擦れ違っただですよ」

「ほうか・・・」

「でもなんか怪しい奴もいるんですよ。。。の喫茶店にいるからき
てくださいよ」

「うっうん・・・今な・・・遠い所にあるんじゃ。行くのは難しいか
もしれん」
でた〜。

やっぱりかよ。

「わかりました。話は聞いておきますのでまた電話します。」

喫茶店に入る。

奴らのあの余裕な顔。

ム力つく。

たった一人の戦いが今始まる。

つづく。

交差する人々その3

「まず貴方はどういうご関係ですか？」

迷わず危険男に聞いた。

ビビッた方が負ける。

ここは若いから舐められようが強気でいくしかない。
今は僕一人だけなんだ。

「ん？あゝ・・・」

言えよっ！

僕は名刺を出した。

自分の名刺を出すことに抵抗があつたので最初は出さなかった。
だが・奴の身分を知るには自分からだ。

危険男は渋々名刺を出した。

金融屋だ。

でもアンタはまともな金融屋ではないでしょう？

「この度の（2代目）のことは知ってるんですか？」

「まあ少しはね」

「今何してんですか？」

僕は2代目に聞いた。

当然あのビルにいることを僕が知ってるとは思ってないだろう。

「ん？まあ新しい仕事をね」

「何処で？」

「今何処に住んでるんですか？」

「携帯は？」

「これからどうするんですか？」

「僕達に対しての何かあるんですか？」

質問攻めをするが、明快な回答が返ってこない。
携帯も持っていないという。

嘘つけ！

「結局さあ・・・」

危険男がいきなり口を開いた。

「おたくは何を求めてるわけ？」

突かれたくないことだった。

元々日記でも書いているように。

僕の中でも。

会社の中でも。

この件は終わっていることだったのだ。

それに対していきなりの出会い。

何を求めてるにも具体的な方法というのは考えてなかった。

「何を・・・って・・・ウチの支払いの件を何とかしてもらわないと。
苦し紛れに僕は言った。」

「でも出来んもんは出来んでしょ？彼（2代目）だってそうしよう
と思っただけではないんだからね」
なんだこいつ？
なんなんだ？

「だけど株式じゃないのに株式って言うてること・・・」

僕の言葉に危険男は自分の声を被せてきた。

「だから。今なんとかしようとして頑張ってるんだからもう少し待っててよ。ね？」

駄目だ。
・
・
。

話が續かない。

上司に連絡さえ取れば・・・。

「じゃあ連絡先だけでも教えて下さいよ」

僕は時間稼ぎをしようとした。

それを見透かしたように危険男は。

「携帯持っていないって言うてるやん」

「いや・貴方ですよ」

「は？なんでワシが教えんといけんのや」

危険男は呆れて言う。

「ワシ関係ないやん」

「関係ないなら口出しをしないでくださいよ」
かなり恐かったが思い切って言った。

恐えええええ！！！！！！

危険男は明らかにムツとしてゐる。

「もうええわ、話にならんわ、いこ、いこ」

僕はコーヒー3人分のレシートを取り上げた。

「僕が払います」

何も言わず2代目と危険男は出て行った。
あ・こういう時は口出さないのですね。

何も出来なかった・・・・・・・・。

見た感じではあるが。

危険男が2代目を使っているように見えた。
つまり2代目は危険男の言いなりか・・・。
確かに全然喋らなかったな。

余計なこと言うなとも言われていたのか。

それにしても恐かった。

まあ奴らの会社の場所は知っていたことが救いだ。
知らなかったらこのまま逃がしたが最後だった。

初代に報告。

危険男のことを話す。

「おう・・・そうか・・・」
えっ？

危険男を知ってるような態度。

繋がってるのなら知ってて当然か・・・。

また後日お伺いすると言って電話を切る。

丁度良く上司から電話。

って・・・遅いよー！
報告。

ふう・・・・・・・・。

溜息が出る。

終わったことだったので新たに書くのはどうかと思ったのですが、
こんなことって滅多にないのでやはり書きました。

それにしても……。

世間は狭いね。

もしかしたら・・・他県の皆さんにも何処かで会ってるかもしれない
んよ。

擦れ違ってるかもしれませんよ。

このハンサムとね！

経緯

エリート社員エステベス。

2代目怪しき会社との経緯。

2004年11月に求人誌で2代目怪しき会社の求人広告を見る。

営業の電話をかけたところ一度訪問することになる。

当時の担当者Nから約100万円近く仕事を貰い、契約書を交わす。

契約書交わす時に代表2代目と初めて会う。

仕事の開始日は2005年4月からではあるが、製作の関係上、年末始にかけて作業を完了してないといけなかった。（このことは2代目側も了承済み）

別の仕事での支払いが1月末に発生するが、事前に経理のAから支払いが遅れるとの連絡がある。

その後は弊社からの連絡だけで2代目の連絡は一切なく、3月頃に店舗が閉められている。

2代目と会って話をするも打開策もなにもなく現在に至る。

被害総額 約¥1,000,000

いよいよ・・・。

動き始めたのです。

怪しき会社。

2代目逮捕へのカウントダウン。

簡単な経緯を出してくれと急に言われたのです。
急いで作って提出しました。

こんなもので大丈夫かな？

文章がおかしいかな？

子供っぽい感じがするけど、どうなのでしょう？

でも、簡潔だからこれくらいしか書けない。
しょうがないか。

・・・・・・。

さて・・・。

どうなることやら・・・。

捕まるのかな？

どういう捜査をするのでしょうか。

とても気になります。

ホンマこいつだけは絶対に！

絶対に！

絶対に捕まえるよっ！！

告訴状

今更。

まだやっていたの？と思われるでしょうが。

「怪しき会社」です。

先日。

・・・といつても1・2ヶ月前ですが。

製作段階の告訴状なるものを見る機会があつたので。

これだけ日数が経っているからいいだろう・・・という浅はかな僕だけの決定で掲載してみます。

なんかあつたら即削除です。

ちなみに・名前関係は全て消して・「怪しき会社」としています。

一応・被害金額も嘘書いています。

まあ・・・これがそのまま提出されたとは思いませんが。
どうなったのかな？

後日。

初代に聞いてみます。

告訴の趣旨。

被告訴人は、詐欺の罪（刑法第246条）を犯しているので、処罰されたくここに告訴する。

告訴事実。

被告訴人は、2代目怪しき会社を名乗る未登記の架空企業名を使い、雇用した従業員等と共謀し、虚無を記載した名刺、チラシ等を使用し、告訴人らを信用させ、商品等を納入させておきながら、約束の支払い期日に支払いを行わず、告訴人の請求に対し、架空の入金話や契約話等で支払いを先延ばしにしながら、新たに商品等を納入させるという事を繰り返し、最終的に支払い義務をほとんど履行せず、告訴人らに大きな損害を与えた。告訴企業2代目怪しき会社、被害金額は各社合計18,000,000円である。告訴人らで組織した「被害者の会」の調査では、告訴企業、被害金額は氷山の一角と言えるほど、一部に過ぎないことが判明している。

告訴に至る経緯。

平成16年某月、被告人は、2代目怪しき会社という未登記の架空企業名を名乗り、（ぴ〜）に入居、従業員を雇用し、主に（ぴ〜）の運営、販売を業務として掲げ、企業活動を開始した。業務開始に際し、架空の有利な投資話で初代怪しき会社から出資金を騙取している。

被告訴人は、雇用した従業員と共謀し、派手な広告活動、パーティーの開催、商品の発注を繰り返していたが、高額な広告費、パーティー代、商品代金をほとんど支払っていないかったのみならず、新聞代、玄関マット代、宅配便料金のような小額の支払いも行っていないかった。その間、営業収入は全く無く、業者に納入させた商品を転売するなどしていた。

家賃を払っていなかった家主の再三、退去要求された末、平成17

年某月、一部の従業員が退去の手続きを行った。事務所退去時には、ほとんどの告訴人は被告訴人と連絡が取れない状態であった。

平成17年某月、一部の被害企業が集まり話し合いが持たれた結果、初代怪しき会社を代表訴人とし、告訴することが決定した。被告訴人の本件行為は、悪質であるのここに処罰されたく告訴するものである。

・・・む。

一体どうするのだ。

2代目がいる所知っているから行つては駄目なのかな？

時間がかかりすぎです。

そういうものなのかな？

とにかく・・・。

早く状況知りたいです。

告発

もうすっかり忘れていました。

僕の脳からそんな記憶は消え去っていました。

・・・っていうか。

「怪しき会社」という小説を書いていたんだなあ・・・と思ったりしてました。

そんな時。

1枚のFAXが・・・。

あっ・・・告訴状を作ってそれを告発するとかしないとか。結局どうなったのでしょうか。

その件がこのFAXに書かれていました。

例によって例の如く。

それをここに掲載します。

もし不都合があれば問答無用で消しますので今のうちに読んでくださいね。

まあ前回も全然不都合ないですけどね。

では・・・どうぞ・・・。

2代目怪しき会社の告発につきましては、ご協力を賜りありがとうございました。

先日、某警察署刑事二課に、告訴状及び被害明細を届出いたしました。諸般の事情により告発が遅くなりました事をお詫びいたします。この度届出いたしました被害は、数社、金額では、18,000,000円になります。被害に至る経緯や。被害状況等を数時間に渡り、担当者に説明しました。その際、皆様から提供して頂いた資料も一緒に提出しました。この度参加してない方ん被害等も含めて、いかに2代目怪しき会社が我々に大きな損害を与えたかを説明いたしました。

担当者の方も、この2代目怪しき会社が非常に悪質であると判断された様子であり、詐欺事件として立件する方向で検討するという回答を頂きました。しかし、捜査には大変な時間がかかり、最終的に2代目や共犯者が逮捕されるのはかなり先になるそうです。今後の捜査次第では、残念ながら逮捕まで至らない事もあるそうです。

今後担当者が皆様に事情を聞くという事があるとは思いますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。

でもね・・・

結局はかなり時間がかかって。

しかも駄目でした、すみません・・・で終わる可能性が強そうです。

残念だな。

そうなった時には。

絶対に2代目に会いにいきます。

居場所を知ってんだぞ！

一言いわないと気がすみませんよ。

逮捕状

いきなりですが。

緊急情報。

今日のことです。

まさにタイムリー。

びっくりしました。

結構日にちがあいていたからですが。

怪しき会社。

大進展。

大急展開。

本当に終焉へ向かうのか。

ようやく終わりへいくのか。

てゆーか終わってください。

終われ。

いいから終われ。

いつもの如くクレームあれば、消去します。

報告ください。

今日会社の方に届いたFAXです。

恐らく一斉送信で各社に送信しているものと思われますが。

速報

2代目怪しき会社の告発につきましては、ご協力を賜りありがとうございます。
ございました。

某警察署に詐欺罪で告発した件に関しましては、先日ご報告させて頂いた通りです。

詐欺罪の立件にはかなりの捜査期間が必要ということでしたが、本日、別の事件で某警察署が恐喝容疑で2代目社長の逮捕状を取った事がわかりました。

また、2代目怪しき会社の事件では、労働関係の法律違反で逮捕状が出るそうです。

ただ、2代目社長の所存がわからないそうです。

何か情報をお持ちの方は（電話番号）までお願いいたします。
よろしくお願いします。

きました！

遂に！

逮捕劇です！

やっとか、頼むよホントに。

まだまだかかりそうですけどねえ。

でも・・逃げているんだよね。

逃げれるのかな。

まさかまだここでウロウロしているのだろうか？

それもおかしいね。

頑張つて捕まえてください！
お願いします！

逮捕

怪しき会社。

遂に完結への道を進んでおります。

最後の最後は僕の活躍はなかったですが。

やはり、悪いことをしたら正義の鉄槌があるのですね。

ちなみに今日の新聞にはまだ載ってなかったです。

では今日のFAXです。

速報

2代目怪しき会社事件の告発につきましては、ご協力を賜りありがとうございました。

12月2日にFAXで2代目社長に逮捕状が出た事をお知らせいたしました。

容疑は恐喝です。逮捕されたのは間違いなく2代目怪しき社長です。

こちらの事件の方も捜査中です。

今度ともよろしく願います。

広島県警のHPに次のように紹介されております。

最新ニュース欄。

最新のニュースなので、すぐに更新されて、記事がないかもしれませんが。

- 債権回収名下に現金を脅し取ろうとした男を逮捕

債権回収名下に現金を脅し取ろうと、9月下旬の夜、広島市中区銀山町のホテルで、同ホテルの営業権を持つ会社社役員の男性に「2,000万円払うか、カスリを入れるかにせえ」。できんのならここをぶち壊して営業ができませんようにして出ちやるわい。」などと脅迫した自称ホテル管理人の男(55)を、12月7日逮捕。

ちゃんと事件として、こうしてHPに出ると僕の今までの話は嘘じゃないことが証明されました。

本当に真実の話を踏まえた上で、改めて「怪しき会社」シリーズ、読み返してみてください。

完全なる最終回まで・・・あと何回・・・？

秘書再びその1

先日、とうとう、2代目が別件で逮捕されたことは、記憶に新しいです。

その後の話は進んではないのですが、新たな展開として昨日の話を書きます。

覚えてますか？

2代目怪しき会社の元秘書のことを。

忘れてしまった、もしくは全然知らない人、読み返してください・・。

実はこの元秘書から逮捕状が出た時くらいに、毎日のように電話がかかってきてました。

1日に3・4回。

とにかくウザイ。

・・というのは忙しい時に鍵ってかかってくるんですよ。

お客さんの電話待ちの時とか。

あゝもう！

なんだよっ！

・・って電話に出ると。

「とにかく会って話したい」と言う。

2代目のことかと聞くと「そうだ」と言う。

でもね・・忙しいんですね。

そんなストーカー行為は僕だけで充分ですから。

今ここで話せ、今ここで。

それはマズイと言う。

何がマズイのだ。

仕方ないので。

本当に仕方ないので、会うことにする。

指定された場所に車でくると、向こうもクラクションを鳴らして車で来た。

鳴らし方が下手くそだったので、怒られてるように聞こえた。
ムカつきました。

元秘書が車に入れという。
喫茶店じゃないのか!?

僕は拉致されるのかとビクビクしながら車内へ。

「久しぶり」

・・・と笑顔。

「ええ・・・どうも」

僕は気のない返事。

つてゆくか眠たいんです。

「捕まったそうですね」

僕が切り出した。

「そうなんよ、あれね、検察が動いておるらしいから、大事になるぞ」

得意気に元秘書は言う。

どうやら、普通は警察が捜査して、それを検察に立件するというのが段取りみたいで。

警察が乗り気にならないと捜査を本格的にしないこともあるそうで

す。

今回は勝手が違うのは、検察が警察に捜査をしろ！と命令したみたいなんです。

そうなると警察は嫌でも捜査をしないといけない。

立件確実なんです。

恐喝の件。

今回も詐欺事件。

元秘書従業員達の給料未払いの件。

全てが動き始めるのです。

「ふーん」

僕は興味なさそうに返事した。

給料未払いとかって・・未だに従業員もグルだと思っているので、なんか不満です。

それよりも元秘書の目的はなんなのだ？

もうこの年末に僕を怒らせないで下さい。

全然大したことない目的だったのだけど、次回につづく

秘書再びその2

とにかく元秘書の目的が知りたい。

この忙しいなか、人類始まって以来のこのハンサムをわざわざ呼び出して、話すようなことなんだろうな・・・。

期待が全然高まらないけど、高まるフリをする。

「検察が動いているんですか・・・」

僕の台詞に待つてましたの如く元秘書が言った。

「あれね、ワシが言ったからなんよ」

・・・。。。

なるほど・・・それが言いたかったわけですか。

そうなんですか？

アンタが動いたから検察がその気になったのですか。

へえ・・・。

すごいですね・・・。

・・・って・・・。

くだらねえ〜!!!!!!

まさかそれを言いたいがために、この変態人間第1位の僕を呼びつけたのですか？

おいおい。

僕もそんなに暇じゃないんですよ。

なに？

すごいですね・・・って言って欲しいのか？

言って欲しいのか？

ああ・言うよ！

言えばいいんだろ！！

「ふん」

僕の冷たい声が車内に響く。

「ワシ頑張ったよ……」

なんか恩着せがましいなあ。

どうせ金は戻ってこないんだよ。

そんなこと言われてもなあ……。

「恐らく捜査が始まるとあなたのところにも事情を聞きに警察が来
ると思うよ」

ぴん………ときた。

そういうことか。

本当の……真の目的はこれか。

つまり、聞き込みに来た時に、自分のことを上手く言ってくれとい
うことか。

それってやっぱし、共犯にされるのを恐がってるんじゃないか。

自分のこと……元秘書のことを悪く言わないでと遠まわしに言っ
てるのだ。

だから「頑張ったよ……」なのか……。
色々考えているなあ……。

「そうですね……上手く言っておきますよ」

僕の一言でほっとした様子の元秘書。

あとは世間話をして、別れました。

ふふふ。

聞き込みか・・・。

初めての経験なので面白そうだ・・・。

「上手く言っておく」

ふふふ。

「上手く・・・皆共犯だと・・・言っておきますよ」

けっけっけっけっけっけっけ！！

裏切りの街！広島！逆バージョン！！

♪ も〜いくつ寝ると〜聞き込みか〜。

元秘書のこと裏切って〜。

共犯者だって言いましょう。

早く来い来い、警官さん。♪

「頑張った」とか言われても・・・ねえ・・・。

それにしても。

終わらないね。

このシリーズ。

判決（前書き）

これで、最終話です。

これから先の話はわかりません。

ですが、結局は僕が受けた詐欺での立証ではなく、恐喝という別の事件での判決でした。

それでもなんとか法の裁きがあったわけですが、良しとしましょう。2度とこういう人間に関わらないように反省し氣をつけています。最後まで読んでくれてありがとうございます。

判決

怪しきその後のお話。

例の元秘書がなんか別に望んでないのに情報を持ってきます。そこはまあ・利用しましょう。

2代目は結局どうなっているのかというと。

恐喝で捕まりましたね。

去年。

その後、調べていく内に、僕達の詐欺事件とかが明るみになっていて。

しかも他の県でも同じようなこととしていて。

警察もこれは大事だと、本腰を入れるようになります。

更には、元秘書のおかげ(?)で、検察までもが動き出したという。

元秘書のことがホントがどうかわかりませんが、とにかくそんな感じです。

調査中までは、某警察署で拘留されていたのですが。

この度、拘置所へ移送されたそうです。

これはどういうことかといいますと。

完全に立件できることが確定したからです。

そして、その後の僕達の事件も後に控えているそうです。

新情報！！

遂に2代目怪しき会社社長の正体を皆さんに教えることができるかもしれません。

2月某日。

午後・・某時刻。

地検で裁判（？）みたいな、とにかく何かあるそうで。
傍聴できるのです。

関係者が多く来てもらった方がいいそうです。

僕も行くと思うのですが・・・どうなるかわかりません。

それから1年後。

ある会社に騙されて。

このハンサムが疾風怒濤の神業な動きを繰り出していたことを。

温厚で有名な僕が怒りのあまり初めて喫茶店で怒鳴ったことを。

先週。

判決が出ました。

ばばん！

実刑2年！！

執行猶予・・・4年！！

うん。

どうなんだ？これは。

一応・・・これで解決ですね。

でもまた何かやらかしますよ、奴は。

それにしても・・・長かった。

2年かかりましたよ。

いや・・・3年か？

これで、完結。

あとは出版の準備をしなければ・・・。

映画化と。

漫画化。

アニメ化。

うん。

主演は僕だな。

本当に・・・完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8187c/>

怪しき会社 2

2010年10月10日05時34分発行